

The Kita Osaka Shinkin Bank

北おおさか信用金庫

# 景況レポート

2015年1~3月期 **No.5**

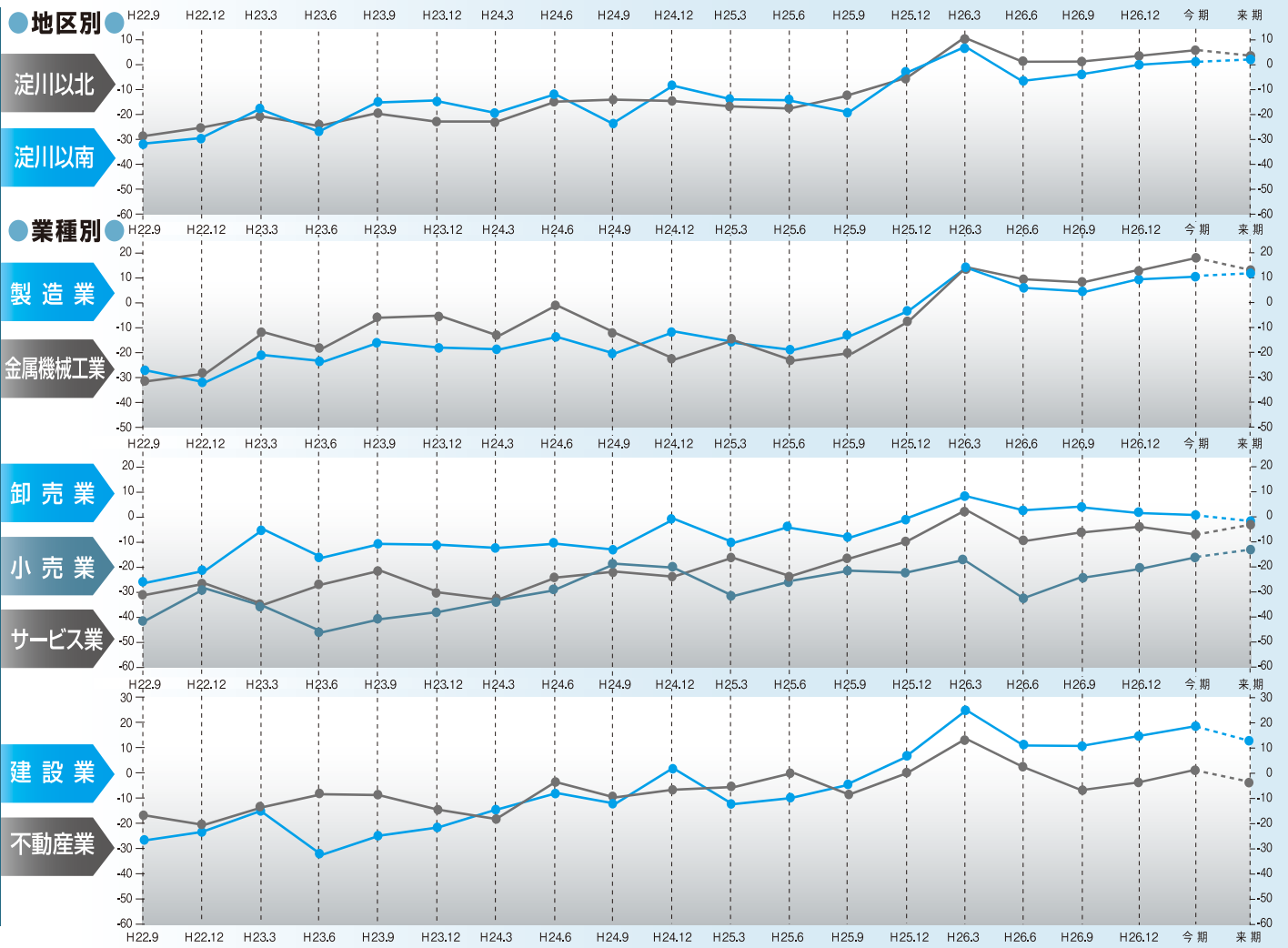
# Business Condition Report



この街の未来をひらく

北おおさか信用金庫

地区別・業種別  
業況判断DIIの推移



## INDEX

- 地区別・業種別 業況判断DII 来期予想までの推移・目次……………1
- 調査概要……………2
- 全業種総合……………3・4
- 製造業……………5
- 金属機械工業……………6
- 卸売業……………7
- 小売業……………8
- サービス業……………9
- 建設業……………10
- 不動産業……………11
- 特別調査「平成27年・電気料金再値上げの影響」について…12・13・14

- 〈調査概要〉** 調査対象……………地元企業1,200社(有効回答1,200社)  
 調査時期……………平成27年3月  
 調査対象期間…平成27年1月～3月期 当期の実績 (26年10月～12月期との比較)  
                   平成27年4月～6月期 来期の見通し(27年1月～3月期との比較)  
 調査方法……………当金庫職員による調査表に基づく聞き取り調査  
 分析方法……………DI(ディフュージョン・インデックス)を中心とした分析

●DIとは

各調査項目について「良い」「増加」「上昇」「過剰」「楽・容易」の回答割合から、「悪い」「減少」「低下」「不足」「苦しい・難しい」の回答割合を差引いた数値です(普通、変わらず、適正は除外しております)。

(例) 良い10%、やや良い20%、普通30%、やや悪い15%、悪い25%の場合

①良い = 良い10% + やや良い20% = 30%

②悪い = 悪い25% + やや悪い15% = 40%

DI = ① - ② = ▲10

●調査内容と注意点

- (1) 売上額、収益、受注残高、販売・仕入価格、在庫、資金繰り、残業時間は前期と比べた当期の状況(来期見通しは当期と比べた来期予想)です。  
 (2) 業況、人手、借入の難易度は、前期比ではなく、その時点での状況です。

●各判断DIが示す内容

	(プラス)	(マイナス)
業 況	現状 「良い」	現状 「悪い」
売上額・収益	前期比「増加」	前期比「減少」
受注残高・残業時間	前期比「増加」	前期比「減少」
販売価格・仕入価格	前期比「価格上昇」	前期比「価格下降」
(原材料)在庫	前期比「過剰」	前期比「不足」
資金繰り	前期比「楽」	前期比「苦しい」
人 手	現状 「過剰」	現状 「不足」
借入の難易度	現状 「容易」	現状 「難しい」

※DIプラスが良いとは限りません(例:仕入価格判断DIプラスは前期比価格上昇)

■対象企業の業種・従業員別構成

	4名以下	5～9名	10～19名	20～29名	30～49名	50～99名	100名以上	合 計(構成比)	
製 造 業	27	48	49	31	24	10	11	200	16.7%
金属機械工業	39	54	49	28	18	5	7	200	16.7%
卸 売 業	32	33	28	11	7	7	2	120	10.0%
小 売 業	79	26	20	7	2	7	9	150	12.5%
サービス業	50	41	34	11	25	21	18	200	16.7%
建 設 業	52	61	58	14	6	7	2	200	16.7%
不 動 産 業	84	31	9	2	2	1	1	130	10.8%
合 計	363	294	247	104	84	58	50	1,200	100.0%
(構成比)	30.3%	24.5%	20.6%	8.7%	7.0%	4.8%	4.2%	100.0%	—

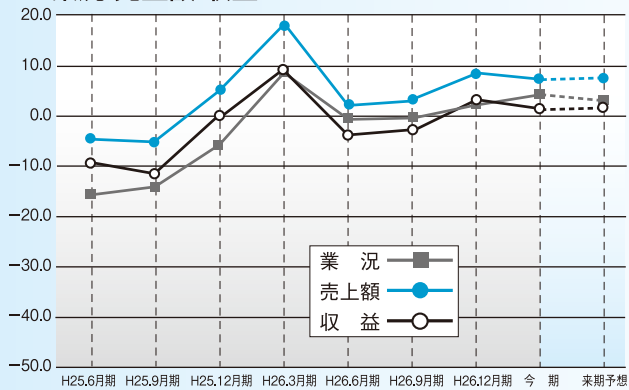
\*製造業の構成比が他5業種と比較して大きいため、製造業のうち金属機械工業を1業種として分割しております。

●調査地域

淀川以北:島本町、高槻市、茨木市、吹田市、摂津市、豊中市、箕面市、池田市、伊丹市、尼崎市、東淀川区、淀川区、西淀川区 他 淀川以北  
 淀川以南:寝屋川市、門真市、守口市、北区、西区、中央区、城東区、旭区、住吉区、此花区、福島区 他 淀川以南



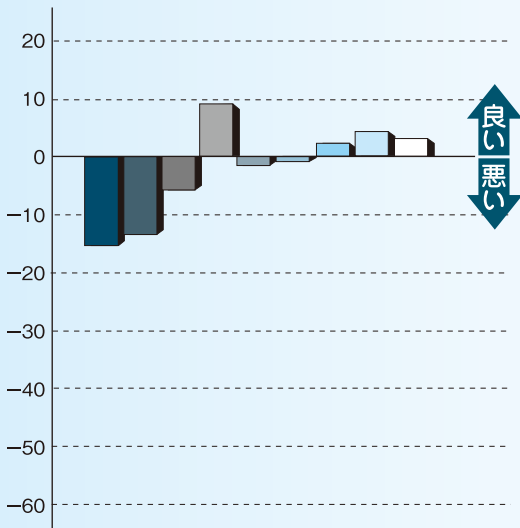
業況・売上額・収益



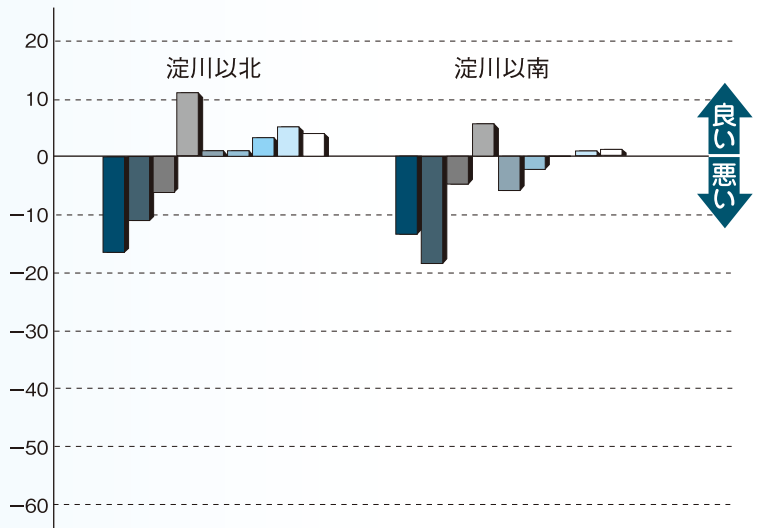
全業種総合 DI値の推移

	H25.6	H25.9	H25.12	H26.3	H26.6	H26.9	H26.12	今	来
業況	-15.3	-13.3	-5.4	9.6	-0.9	-0.4	2.5	4.7	3.5
売上額	-4.1	-4.9	6.1	18.5	1.8	3.6	8.6	7.6	7.9
受注残	-4.4	-0.3	9.3	26.4	11.5	10.0	16.1	20.6	15.0
施工高	4.1	0.0	23.2	22.7	10.5	6.9	16.5	15.5	7.0
収益	-8.9	-11.2	0.2	9.5	-4.1	-2.7	3.4	1.5	2.1
販売価格	-5.3	-5.8	-0.8	3.7	6.0	5.4	3.4	2.9	2.7
原材料・仕入価格	22.4	20.4	22.4	21.4	24.4	25.3	23.7	20.4	17.5
在庫	1.0	-2.8	0.2	-0.6	-1.6	-2.5	-2.1	0.0	-1.4
資金繰り	-15.0	-12.4	-9.8	-5.8	-6.5	-6.0	-5.8	-7.6	-4.9
従業員残業時間	0.5	-0.4	5.2	11.2	5.3	5.6	6.7	7.3	5.4
従業員人手	-6.2	-9.2	-12.9	-12.7	-11.0	-11.5	-13.5	-13.5	-13.5
設備状況	-7.3	-6.9	-7.9	-6.2	-5.9	-6.5	-6.4	-8.5	-7.9

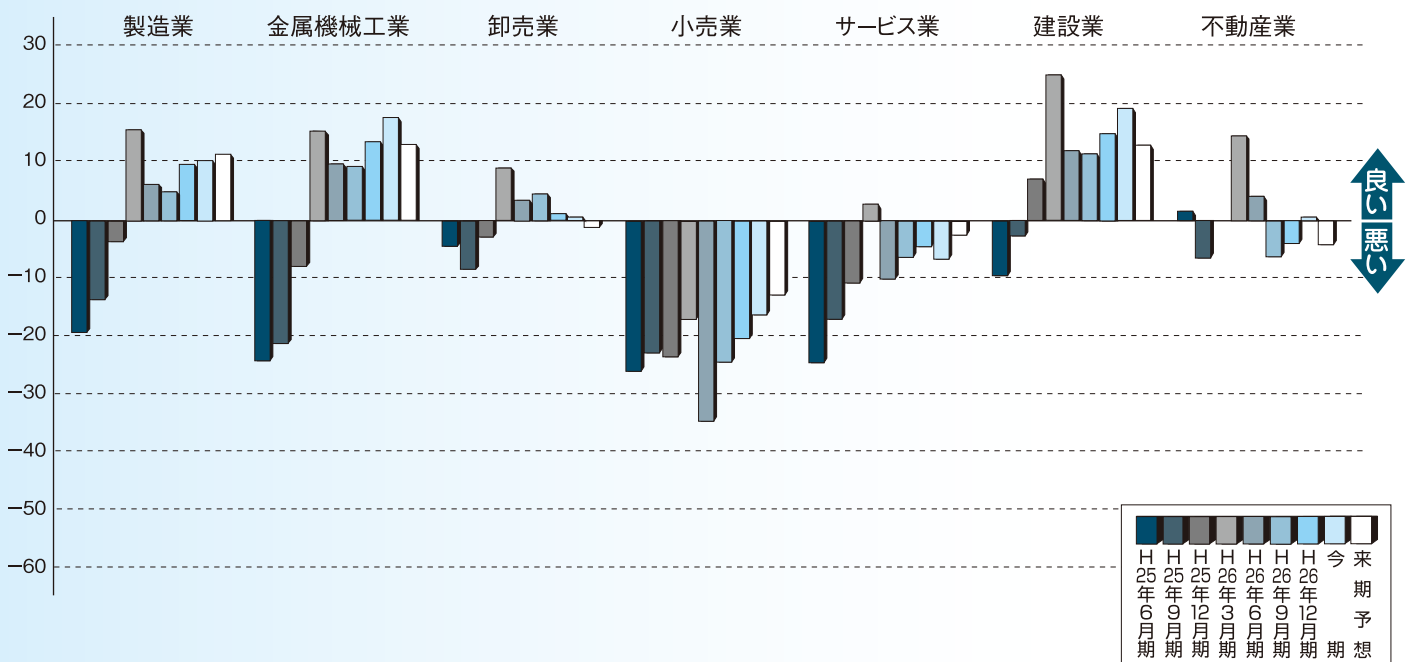
全体業況判断DI



地区別業況判断DI



業種別業況判断DI



■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
H	H	H	H	H	H	H	H	今	来
25	25	25	26	26	26	26	26	26	来
年	年	年	年	年	年	年	年	年	期
6	9	12	3	6	9	12	12	12	予
月	月	月	月	月	月	月	月	月	想
期	期	期	期	期	期	期	期	期	

## 業況について

### ～2015年1月～3月期、全業種の業況はほぼ横ばい～

2015年1月～3月期、全業種の業況判断DIは、4.7(前期比2.2ポイント増)となり、ほぼ横ばいながら2期連続で上向いた。前回調査時点での今期見通し(▲0.1)を上回った。

2015年4月～6月期(来期)の予想は、業況判断DIは3.5(今期実績比1.2ポイント減)となり、ほぼ横ばいの見通しとなった。

### ～4業種が小幅に改善～

業種別にみると、金属機械工業、建設業、不動産、小売業が小幅に上昇し改善した。サービス業でわずかにマイナス幅を拡大した。

最も業況判断DIが高かったのは建設業で、19.0(前期比4.5ポイント増)となった。以下は、金属機械工業17.5(前期比4.5ポイント増)、製造業10.0(前期比1.5ポイント増)、卸売業0.8(前期比0.8ポイント減)、不動産業0.7(前期比4.5ポイント増)、サービス業▲7.0(前期比3.0ポイント減)、小売業▲16.7(前期比4.0ポイント増)の順に続いた。

### ～淀川以北・以南の景況感はほぼ横ばい、来期はいずれも横ばいの見通し～

地域別にみると、業況判断DIは淀川以北地域で5.5(前期比2.3ポイント増)となり、ほぼ横ばいで推移した。前回調査時点での今期見通し(2.5)を上回った。淀川以南地域でも業況判断DIは1.8(前期比1.8ポイント増)となり、ほぼ横ばいとなった。ただ淀川以南地域は前回調査時点での今期見通し(▲9.0)を大幅に上回り、悪化は見られなかった。

2015年4月～6月期(来期)の業況は、淀川以北地域は3.8となり、ほぼ横ばいの見通しとなった。また淀川以南地域も2.2となり、横ばいの見通しとなった。

## 売上額・収益の動き

### ～売上額、収益ともに横ばい～

全業種の売上額判断DIは7.6(前期比1.0ポイント減)となり、横ばいで推移した。対象7業種では建設業、不動産業で改善が見られた。一方で卸売業、サービス業では悪化となった。その他の業種はほぼ横ばいで推移となった。

最も売上額判断DIが高かった業種は、建設業23.0(前期比7.5ポイント増)となった。以下、金属機械工業17.5(前期比1.0ポイント減)、製造業11.0(前期比1.0ポイント増)、不動産業4.6(前期比8.4ポイント増)、卸売業4.2(前期比14.1ポイント減)、サービス業▲4.0(前期比9.5ポイント減)、小売業▲10.0(前期比2.0ポイント減)の順に続いた。

全業種の収益判断DIは1.5(前期比1.9ポイント減)となり、ほぼ横ばいで推移した。対象7業種では建設業、不動産業は小幅な改善となった。卸売業、サービス業は悪化となった。また小売業は小幅な悪化、機械金属工業、製造業はいずれも横ばいとなった。

2015年4月～6月期(来期)の予想は、売上額判断DIは7.9となり、また収益判断DIは2.1となり、ともに横ばいの見通しとなった。

## 販売価格・原材料・仕入価格の動き

### ～販売価格、原材料・仕入価格ともにほぼ横ばい～

販売価格判断DIは2.9(前期比0.5ポイント減)となり、ほぼ横ばいで推移した。原材料・仕入価格判断DIは20.4(前期比3.3ポイント減)となり、小幅に低下となった。ただ上昇とした企業の割合が下降とした企業の割合を上回っており、H25年6月期から8期連続でDIは20を超えている。

2015年4月～6月期(来期)の予想は、販売価格判断DIは2.7となり、横ばいの見通しとなった。原材料・仕入価格判断DIは17.5となり今期実績から2.9ポイント低下の見通しとなった。

## 資金繰り・雇用面の動き

### ～資金繰り、人手不足感ともに横ばい～

資金繰り判断DIは▲7.6(前期比1.8ポイント減)となりほぼ横ばいに推移した。人手判断DIは▲13.5(前期比増減なし)となり、人手不足感は横ばいに推移した。人手判断DIが最も高かったのは不動産業で▲0.7となった。以下順に卸売業▲5.0、製造業▲5.5、小売業▲8.0、サービス業▲19.0、機械金属工業▲20.5、建設業▲26.5の順に続いた。2015年4月～6月期(来期)の予想は、資金繰り判断DIは▲4.9となり、ほぼ横ばいで推移する見通しとなった。人手判断DIは▲13.5となり、人手不足感は横ばいの見通しとなった。

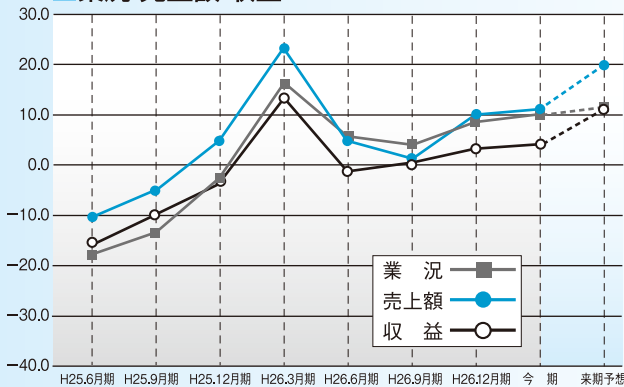
## 経営上の問題点

	1位	2位	3位	4位	5位
製造業	同業者間の競争の激化 46.0%	売上の停滞・減少 38.0%	利幅の縮小 30.5%	原材料・料金価格高 23.0%	人手不足 14.0%
金属機械工業	同業者間の競争の激化 43.5%	売上の停滞・減少 32.0%	利幅の縮小 27.5%	人手不足 19.5%	原材料・料金価格高 19.0%
卸売業	同業者間の競争の激化 55.8%	利幅の縮小 36.7%	売上の停滞・減少 30.8%	仕入先からの値上げ要請 15.8%	為替レートの変動 14.2%
小売業	同業者間の競争の激化 45.3%	売上の停滞・減少 44.0%	大型店との競争激化 42.0%	利幅の縮小 18.0%	商店街の集客力の低下 18.0%
サービス業	同業者間の競争の激化 49.5%	売上の停滞・減少 32.0%	利幅の縮小 21.5%	人手不足 20.0%	人件費の増加 16.0%
建設業	同業者間の競争の激化 48.5%	人手不足 34.0%	利幅の縮小 26.0%	原材料・材料価格の上昇 22.5%	下請けの確保難 22.5%
不動産業	同業者間の競争の激化 54.6%	商品物件の不足 51.5%	利幅の縮小 34.6%	売上の停滞・減少 26.2%	商品物件の高騰 19.2%

## 当面の重点経営施策

	1位	2位	3位	4位	5位
製造業	販路を広げる 71.5%	経費を節減 54.5%	情報力を強化 28.5%	新製品・技術を開発 23.5%	提携先を見つける 14.5%
金属機械工業	販路を広げる 64.0%	経費を節減 50.0%	人材確保 24.0%	情報力を強化 22.0%	新製品・技術を開発 17.5%
卸売業	販路を広げる 76.7%	経費を節減 54.2%	品揃えを充実 27.5%	情報力を強化 25.0%	提携先を見つける 15.0%
小売業	経費を節減 62.7%	品揃えを充実 40.7%	売れ筋商品を取扱う 37.3%	宣伝・広告を強化 31.3%	商店街事業を活性化 14.7%
サービス業	経費を節減 55.0%	販路を広げる 54.0%	宣伝・広告を強化 28.0%	人材確保 22.0%	提携先を見つける 16.0%
建設業	経費を節減 52.0%	販路を広げる 50.5%	人材確保 40.0%	技術力を強化 28.5%	情報力を強化 27.5%
不動産業	情報力を強化 69.2%	販路を広げる 43.8%	宣伝・広告を強化 36.9%	経費を節減 32.3%	不動産の有効活用 13.8%

■ 業況・売上額・収益



■ 製造業 DI値の推移

	H25.6	H25.9	H25.12	H26.3	H26.6	H26.9	H26.12	今期	来期予想
業況	-18.6	-13.7	-3.4	15.5	5.5	4.5	8.5	10.0	11.5
売上額	-11.0	-5.4	4.1	22.5	5.0	1.5	10.0	11.0	20.0
受注残	-9.6	2.8	10.3	22.5	9.5	5.5	13.0	16.0	22.0
収益	-16.5	-10.2	-4.1	13.0	-1.0	0.5	3.5	4.0	11.0
販売価格	-5.5	-5.5	-7.5	0.0	1.0	2.0	1.0	2.0	4.5
原材料価格	22.7	19.9	19.9	22.0	24.4	29.0	30.0	24.5	23.5
在庫	3.4	1.4	2.8	1.5	3.0	-1.0	2.0	4.5	4.0
資金繰り	-13.8	-11.6	-11.0	-5.5	-4.0	-3.5	-7.0	-7.0	-1.5
従業員残業時間	0.7	-4.1	9.6	15.0	8.9	4.5	12.5	6.5	7.0
従業員人手	-3.5	-5.4	-7.5	-9.5	-6.9	-9.0	-10.0	-5.5	-6.5
設備状況	-11.7	-9.6	-9.6	-7.5	-7.9	-9.0	-6.0	-9.5	-8.0

■ 業況について

～2015年1月～3月期、製造業の業況はほぼ横ばい、来期は横ばいの見通し～

2015年1月～3月期、製造業の業況判断DIは10.0(前期比1.5ポイント増)となり、ほぼ横ばいで推移した。ただ前回調査時点での今期見通し(7.5)は上回った。

最多納入先別の業況判断DIを見ると、「中小メーカー向け」は13.7(前期比8.7ポイント増)となり、上昇した。一方「大メーカー向け」(前回13.1ポイントの大幅増加)は、今回14.3(前期比3.1ポイント減)と小幅に低下となった。また、「小売・最終需要家向け」は0.0(前期比14.3ポイント減)となり、大幅に低下となった。

2015年4月～6月期(来期)の予想は、業況判断DIは11.5(今期実績比1.5ポイント増)となり、ほぼ横ばいで推移する見通しとなった。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー	小売・最終需要家
全体	200	36	49	95	20
良い～悪い	20	0	7	13	0
DI	10.0%	0.0%	14.3%	13.7%	0.0%

■ 売上額・収益・受注残の動き

～売上額は横ばい、受注残、収益はわずかに改善、来期はいずれも改善の見通し～

売上額判断DIは11.0(前期比1.0ポイント増)となり、横ばいとなった。受注判断DIは16.0(前期比3.0ポイント増)となり、わずかに改善した。収益判断DIは4.0(前期比0.5ポイント増)となり、横ばいで推移した。

2015年4月～6月期(来期)の予想は、売上額判断DIは20.0(今期実績比9.0増)となり、改善するとの見通しとなった。収益判断DIも11.0(今期実績比7.0ポイント増)となり、改善するとの見通しとなった。また受注判断DIは22.0(今期実績比6.0ポイント増)となり、改善の見通しとなった。

■ 販売価格・原材料・仕入価格の動き

～販売価格は横ばい、原材料・仕入価格は改善、来期はともに横ばいの見通し～

販売価格判断DIは2.0(前期比1.0ポイント増)となり、横ばいに推移した。原材料価格判断DIは24.5(前期比5.5ポイント減)となり、6期ぶりの改善となった。

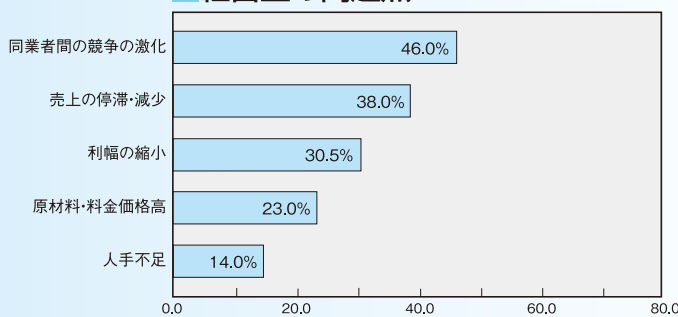
2015年4月～6月期(来期)の予想は、販売価格判断DIは4.5(今期実績比2.5ポイント増)となり、ほぼ横ばいの見通し。原材料価格判断DIは23.5(今期実績比1.0ポイント減)となり、横ばいで推移するとの見通しとなった。

■ 資金繰り・雇用面の動き

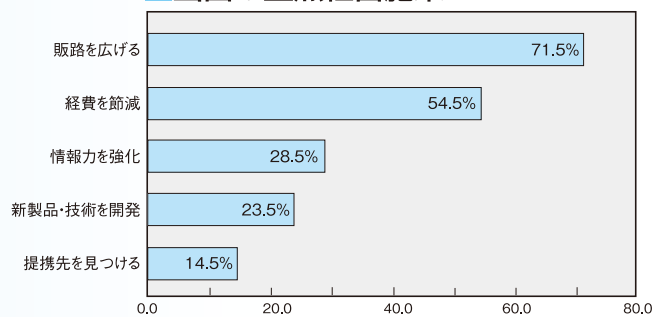
～資金繰りは横ばい、人手不足感は小幅に弱まる～

資金繰り判断DIは▲7.0(前期比増減なし)となり、横ばいで推移した。人手判断DIは▲5.5(前期比4.5ポイント増)となり、人手不足感は小幅に弱まった。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業が(前期0.5%→)4.0%、適正とした企業が(前期89.0%→)86.5%、不足とした企業が(前期10.5%→)9.5%となった。

■ 経営上の問題点



■ 当面の重点経営施策

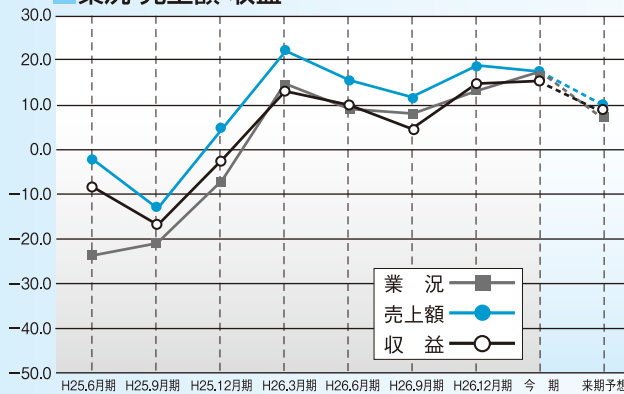


■ 企業のコメント



- ・売上、収益、受注は増加している。関東方面の市場が好調であり当面この状況は維持できると予想している。(仮設資材製造業)
- ・増収、増益で業況はよい。今後も好調が見込まれる。(エンジン部品製造業)
- ・業況は安定しており、今後も堅調に推移していくと予想している。(プラスチック製品製造業)
- ・為替相場の変動による業績への影響を懸念している。(窯業・土石製品製造業)
- ・急激な円安で輸入資材コストは上昇し収益を圧迫している。(その他製造業)
- ・価格競争の激化と原材料価格の高騰が売上、利益を減少させ厳しい状況である。(パルプ・紙・紙加工品製造業)

業況・売上額・収益



金属機械工業 DI値の推移

	H25.6月期	H25.9月期	H25.12月期	H26.3月期	H26.6月期	H26.9月期	H26.12月期	今期	来期予想
業況	-23.7	-21.2	-7.7	14.5	9.5	8.0	13.0	17.5	12.5
売上額	-2.6	-12.8	5.1	21.9	15.6	11.5	18.5	17.5	10.0
受注残	-3.4	-11.9	0.0	22.9	11.0	13.5	16.0	20.5	10.5
収益	-8.5	-16.9	-2.5	13.2	10.0	4.0	15.0	15.5	9.0
販売価格	-6.8	-13.6	0.0	0.5	1.5	1.0	-0.5	2.0	1.0
原材料価格	28.8	16.9	23.7	17.8	19.1	21.0	19.0	22.5	19.5
在庫	3.4	-4.3	3.4	3.1	-1.5	-1.5	0.0	3.5	1.5
資金繰り	-22.9	-22.9	-17.8	-1.6	-1.5	-3.5	-0.5	-4.0	2.5
従業員残業時間	0.8	-5.1	6.8	15.2	11.6	10.5	9.0	21.0	13.5
従業員人手	-4.3	-6.8	-17.8	-10.2	-12.1	-13.0	-18.0	-20.5	-17.5
設備状況	-8.5	-6.8	-9.4	-7.1	-9.1	-11.5	-11.5	-14.5	-13.0

業況について

～2015年1月～3月期、金属機械工業の業況は小幅に改善、来期は悪化の見通し～

2015年1月～3月期、金属機械工業の業況判断DIは17.5(前期比4.5ポイント増)となり、小幅に改善した。前回調査時点での今期見通し(6.0)を大きく上回った。

最多納入先別業況判断DIを見ると、「大メーカー向け」は27.3(前期比9.4ポイント増)となり、上昇した。また「小売・最終需要家向け」は16.7(前期比4.2ポイント増)、「中小メーカー向け」は16.5(前期比6.4ポイント増)となり、いずれも上昇となった。ただ「問屋・商社向け」は▲10.5(前期比23.0ポイント減)となり、大幅に低下した。

2015年4月～6月期(来期)の予想は、業況判断DIは12.5(今期実績比5.0ポイント減)となり、小幅に悪化すると見通しとなった。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー	小売・最終需要家
全体	200	19	66	109	6
良い～悪い	35	-2	18	18	1
DI	17.5%	-10.5%	27.3%	16.5%	16.7%

売上額・収益・受注の動き

～売上額、収益は横ばい、来期はともに悪化の見通し～

売上額判断DIは17.5(前期比1.0ポイント減)となり、横ばいとなった。収益判断DIは15.5(前期比0.5ポイント増)となり、横ばいで推移した。受注判断DIは20.5(前期比4.5ポイント増)となり、小幅に改善となった。

2015年4月～6月期(来期)の予想は、売上額判断DIは10.0(今期実績比7.5ポイント減)となり、悪化すると見通しとなった。また収益判断DIは9.0(今期実績比6.5ポイント減)となり、悪化すると見通しとなった。

販売価格・原材料価格の動き

～販売価格は横ばい、原材料価格は小幅に悪化、来期はともにほぼ横ばいの見通し～

販売価格判断DIは2.0(前期比2.5ポイント増)となり、ほぼ横ばいで推移した。原材料価格判断DIは22.5(前期比3.5ポイント増)となり、小幅に悪化となった。

2015年4月～6月期(来期)の予想は、販売価格判断DIは1.0(今期実績比1.0ポイント減)となり、横ばいで推移する見通しとなった。原材料価格DIが19.5(今期実績比3.0ポイント減)となり、ほぼ横ばいの見通しとなった。

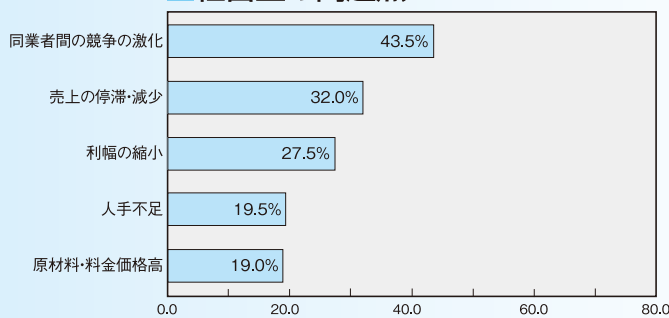
資金繰り・雇用面の動き

～資金繰りは小幅に悪化、人手不足感はほぼ横ばい～

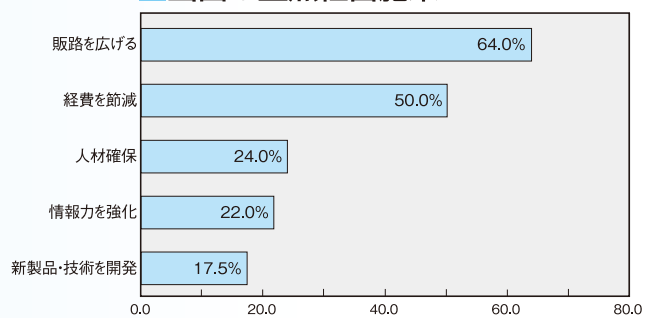
資金繰り判断DIは▲4.0(前期比3.5ポイント減)となり、小幅に悪化となった。

人手判断DIは▲20.5(前期比2.5ポイント減)となり、不足感はほぼ横ばいとなった。ただ前年同期比では10.3ポイント減少している。人手判断DIの内訳は、人手過剰とした企業が(前期2.0%→)0.0%、適正とした企業が(78.0%→)79.5%、不足とした企業が(前期20.0%→)20.5%となった。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

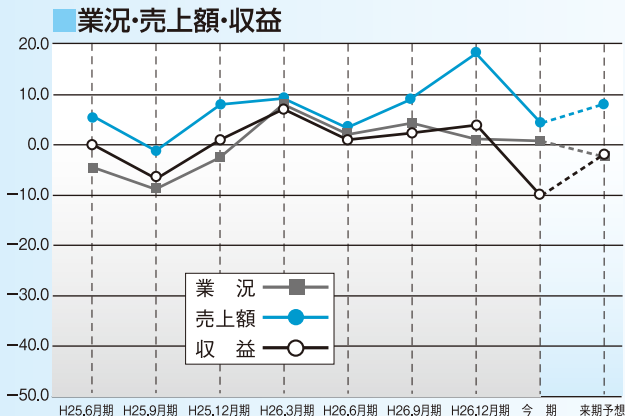


企業のコメント



- ・設備投資後は増収、増益であり、今後も持続すると予想している。(金属製品製造業)
- ・売上は増加傾向にあり、実施した設備投資から更に販路拡大も見込まれ今後に期待している。(非鉄金属製造業)
- ・業況は好調であるが、人手不足が課題となっている。早急な改善がされない厳しい状況は続くとして見通している。(建設用・建築用金属製品製造業)
- ・新工場建設を予定しており、更に売上、利益増加が見込まれる。(その他の金属・機械製造業)
- ・主力取引先からの値下げ要請が利益を圧迫させる厳しい状況である。(金属製品製造業)
- ・大メーカー向け売上は低迷していたが、4月以降は回復の兆しが見られ、売上増加を期待している。(自動車関連金属製品製造業)





### 卸売業 DI値の推移

	H25.6月期	H25.9月期	H25.12月期	H26.3月期	H26.6月期	H26.9月期	H26.12月期	今期	来期予想
業況	-4.6	-8.0	-2.3	8.3	3.3	4.2	1.6	0.8	-1.7
売上額	5.7	-1.2	8.1	9.0	4.0	9.2	18.3	4.2	8.3
収益	0.0	-5.7	1.1	8.1	1.6	2.5	4.1	-10.0	-1.6
販売価格	-1.2	-2.3	2.3	4.0	11.3	11.6	14.2	5.9	5.0
仕入価格	29.9	23.0	19.5	17.7	22.8	19.1	26.6	22.5	10.8
在庫	9.2	8.1	4.6	2.5	0.0	4.2	5.0	4.1	4.2
資金繰り	-5.7	-11.5	-5.8	-4.8	0.0	1.7	-1.7	-7.5	-9.2
従業員残業時間	-1.1	2.3	1.2	0.8	2.4	0.9	0.8	1.6	1.7
従業員人手	-6.9	-13.8	-11.6	-8.1	-9.8	-7.5	-7.5	-5.0	-6.7
設備状況	-5.8	0.7	-6.9	-4.1	-0.8	-0.9	-2.5	-2.5	-2.5

### 業況について

～2015年1月～3月期、卸売業の業況は横ばい、来期はほぼ横ばいの見通し～

2015年1月～3月期、卸売業の業況判断DIは0.8(前期比0.8ポイント減)となり、横ばいとなった。前年同期比では7.5ポイント減少している。

最多納入先別に業況判断DIをみると、「大メーカー向け」は38.9(前期比15.4ポイント増)となり大幅に上昇となった。また「問屋・商社向け」は▲7.1(前期比9.6ポイント増)となり、上昇した。一方「中小メーカー向け」は▲10.8(前期比13.4ポイント減)となり、大幅に低下した。

2015年4月～6月期(来期)の予想は、業況判断DIは▲1.7(今期実績比2.5ポイント減)となり、ほぼ横ばいで推移するとの見通しとなった。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー	小売業者
全体	120	28	18	37	37
良い～悪い	1	-2	7	-4	0
DI	0.8%	-7.1%	38.9%	-10.8%	0.0%

### 売上額・収益の動き

～売上額、収益とも予想以上の悪化、来期はともに改善の見通し～

売上額判断DIは4.2(前期比14.1ポイント減)となり、大幅に悪化となった。収益判断DIは▲10.0(前期比14.1ポイント減)となり、大幅に悪化となった。前回調査時の今期売上額判断DIの見通しは低下幅3.3ポイント、収益判断DIは同1.6ポイント予測を超える低下となった。

### 販売価格・仕入価格の動き

～仕入価格は小幅に改善、販売価格は悪化、来期の仕入価格は大幅に改善の見通し～

販売価格判断DIは5.9(前期比8.3ポイント減)となり、悪化となった。販売価格判断DI数値が一桁台になったのは4期ぶり。仕入価格判断DIは22.5(前期比4.1ポイント減)となり、小幅に改善した。

2015年4月～6月期(来期)の予想は、販売価格DIは5.0(今期実績比0.9ポイント減)となり、横ばいで推移する見通しとなった。仕入価格判断DIは10.8(今期実績比11.7ポイント減)となり、大幅に改善の見通しとなった。

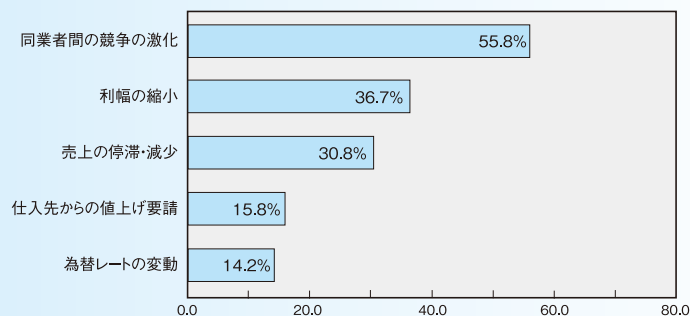
### 在庫・資金繰り・雇用の動き

～在庫は横ばい、資金繰りは悪化～

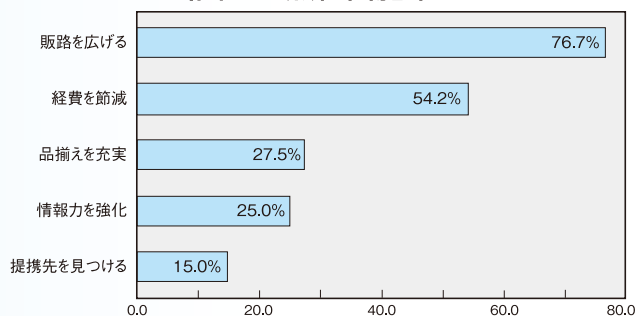
在庫判断DIは4.1(前期比0.9ポイント減)となり、横ばいで推移した。資金繰り判断DIは▲7.5(前期比5.8ポイント減)となり、悪化した。

人手判断DIは▲5.0(前期比2.5ポイント増)となり、人手不足感はほぼ横ばいで推移した。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業が(前期0.8%→)2.5%、適正とした企業が(前期90.9%→)90.0%、不足とした企業が(前期8.3%→)7.5%となった。

### 経営上の問題点



### 当面の重点経営施策



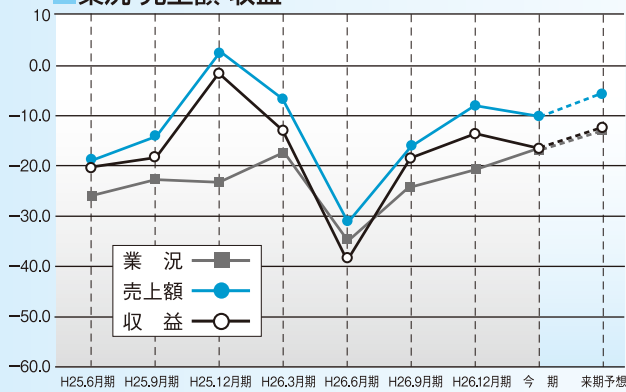
### 企業のコメント



- ・オリンピック需要が好調であり売上は増加の状況にある。(機械器具卸売業)
- ・販路拡大により売上、受注、収益は増加している。人材不足が課題となっている。(産業用機械器具卸売業)
- ・適正在庫の確保が厳しい状況からは回復してきており、今後の売り上げは安定すると予想している。(農産物・水産物卸売業)
- ・円安の影響で仕入コストの上昇を懸念している。(繊維品卸売業)
- ・円安の影響でコストは上昇し利益を圧迫している。(その他卸売業)
- ・価格競争の激化と円安による輸入コスト上昇で収益の確保が厳しい状況にある。(その他の卸売業)



業況・売上額・収益



小売業 DI値の推移

	H25.6月期	H25.9月期	H25.12月期	H26.3月期	H26.6月期	H26.9月期	H26.12月期	今 期	来期予想
業 況	-25.5	-22.4	-23.4	-17.3	-34.7	-24.6	-20.7	-16.7	-12.7
売 上 額	-19.4	-14.3	3.1	-6.0	-31.3	-16.7	-8.0	-10.0	-5.3
収 益	-20.4	-18.4	-1.0	-12.6	-38.8	-18.0	-13.3	-16.6	-12.0
販売価格	-9.1	0.0	7.1	2.6	11.3	8.7	2.7	0.7	3.3
仕入価格	15.3	28.5	29.6	19.4	29.2	22.0	14.0	16.0	14.0
在 庫	12.4	4.1	6.2	2.7	1.3	0.7	-1.3	-1.3	-0.6
資金繰り	-24.5	-21.4	-18.4	-19.3	-19.7	-12.0	-14.0	-15.4	-14.0
従業員残業時間	4.1	3.0	4.1	4.6	-0.7	1.3	0.0	0.0	0.0
従業員人手	-6.2	-9.2	-11.3	-5.4	-5.5	-6.0	-5.3	-8.0	-8.0
設備状況	-3.1	-2.1	-5.1	-4.6	-2.7	-3.3	-2.7	-4.7	-3.4

業況について

～2015年1月～3月期、小売業の業況は小幅に改善、来期も小幅に改善の見通し～

2015年1月～3月期、小売業の業況判断DIは▲16.7(前期比4.0ポイント増)となり、小幅に改善となった。低調な状況は続くものの3期連続して改善した。昨年の消費増税による大幅な低下から増税前とほぼ同一まで回復した。

店舗立地地域別に業況判断DIをみると、「住宅地隣接商店街」は▲24.3(前期比2.7ポイント増)となり、ほぼ横ばいとなった。「駅周辺商店街」は▲20.8(前期比1.2ポイント減)となり、ほぼ横ばいとなった。「その他」は▲8.3(前期比7.5ポイント増)となった。「住宅地隣接商店街」は前年同期の調査時から16.2ポイント改善した。一方「駅周辺商店街」は6.8ポイント、「その他」は6.3ポイントともに悪化している。

2015年4月～6月期(来期)の予想は、業況判断DIは▲12.7(今期実績比4.0ポイント増)となり、小幅に改善するとの見通しとなった。

◎店の立地地域別業況について(当期)

	合 計	駅周辺商店街	住宅地隣接商店街	そ の 他
全 体	150	53	37	57
良い～悪い	-25	-11	-9	-5
D I	-16.7%	-20.8%	-24.3%	-8.8%

売上額・収益の動き

～売上額はほぼ横ばい、収益は小幅に悪化、来期ともに小幅に改善の見通し～

売上額判断DIは▲10.0(前期比2.0ポイント減)となり、ほぼ横ばいとなった。収益判断DIは▲16.6(前期比3.3ポイント減)となり、小幅に悪化となった。

2015年4月～6月期(来期)の予想は、売上額判断DIは▲5.3(今期実績比4.7ポイント増)となり、小幅に改善する見通しとなった。収益判断DIは▲12.0(今期実績4.6ポイント増)となり、小幅に改善する見通しとなった。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格、仕入価格ともほぼ横ばい、来期もともにほぼ横ばいの見通し～

販売価格判断DIは0.7(前期比2.0ポイント減)となり、ほぼ横ばいとなった。仕入価格判断DIは16.0(前期比2.0ポイント増)となり、ほぼ横ばいとなった。

2015年4月～6月期(来期)の予想は、販売価格判断DIは3.3(今期実績比2.6ポイント増)となり、また仕入価格判断DIは14.0(今期実績2.0ポイント減)となり、ともにほぼ横ばいの見通しとなった。

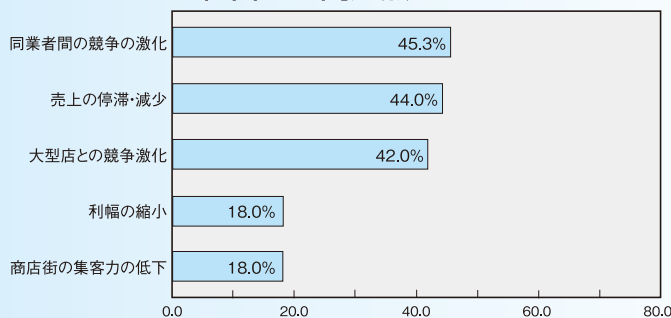
資金繰り・雇用面の動き

～資金繰り、人手不足感ともほぼ横ばい、来期も横ばいの見通し～

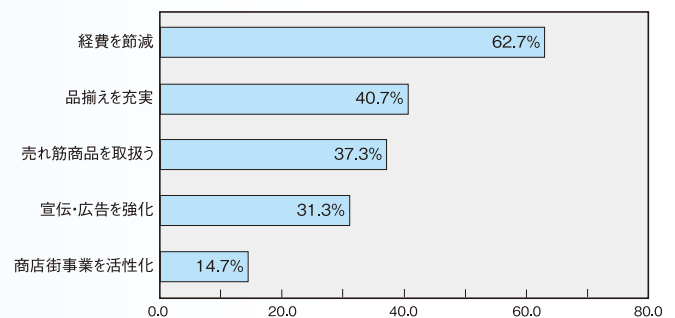
資金繰り判断DIは▲15.4(前期比1.4ポイント減)となり、ほぼ横ばいで推移した。対象7業種中最も低い数値。人手判断DIは▲8.0(前期比2.7ポイント減)となり、ほぼ横ばいで推移した。

2015年4月～6月期(来期)の予想は、資金繰り判断DIは▲14.0(今期実績比1.4ポイント増)となり、ほぼ横ばいの見通しとなった。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業が(前期2.7%→)2.0%、適正とした企業が(前期89.3%→)88.0%、人手不足とした企業が(前期8.0%→)10.0%となった。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

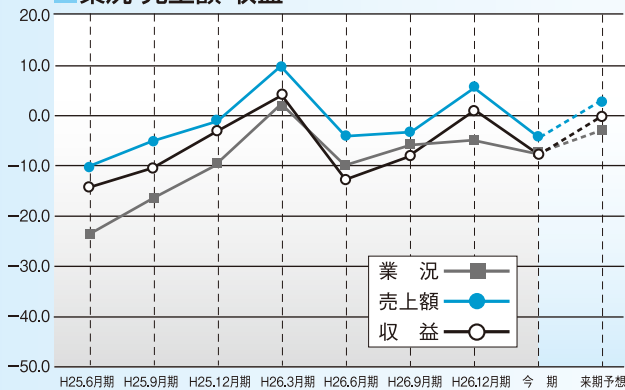


企業のコメント



- ・訪日外来客の増加で売上、収益とも好調であり、積極的に設備投資の実施と人材確保をする状況にある。(飲食品小売業)
- ・売上、利益はインターネット販売が好調で増加しており、今後、更に海外からの輸入による品揃えの充実をしたい。(その他の小売業)
- ・電気料金の値上げ対策で店舗の照明をLED化した。(自動車・自転車小売業)
- ・仕入価格は今後10%上昇を予想している。(飲食品小売業)
- ・円安による輸入コストの上昇分を価格転嫁することは顧客離れが予想され難しい状況にある。(織物・衣服・身のまわり品小売業)
- ・価格競争の激化から利幅は縮小し、厳しい状況である。(建築資材小売業)

■ 業況・売上額・収益



■ サービス業 DI値の推移

	H25.6月期	H25.9月期	H25.12月期	H26.3月期	H26.6月期	H26.9月期	H26.12月期	今期	来期予想
業況	-24.0	-17.1	-10.0	2.5	-10.0	-5.5	-4.0	-7.0	-2.5
売上額	-10.1	-5.4	-0.8	10.0	-3.5	-3.0	5.5	-4.0	3.0
収益	-14.8	-10.8	-3.1	3.0	-12.5	-8.0	1.0	-7.5	0.0
料金価格	-5.4	-9.4	-1.5	6.5	7.0	8.5	4.0	1.0	0.5
材料価格	13.4	13.9	16.4	19.1	22.5	26.5	18.0	7.5	9.5
資金繰り	-18.0	-8.5	-6.3	0.0	-10.5	-11.5	-8.5	-10.0	-10.0
従業員残業時間	-1.5	-0.8	-2.3	10.5	6.0	5.5	10.5	6.5	6.5
従業員人手	-10.8	-8.5	-14.0	-14.5	-10.0	-14.0	-18.5	-19.0	-20.5
設備状況	-10.8	-10.9	-10.0	-9.6	-7.5	-8.0	-7.0	-10.5	-9.5

業況について

～2015年1月～3月期、サービス業の業況はほぼ横ばい、来期は小幅に改善の見通し～

2015年1月～3月期、サービス業の業況判断DIは▲7.0(前期比3.0ポイント減)となり、ほぼ横ばいで推移した。

2015年4月～6月期(来期)の予想は、業況判断DIは▲2.5(今期実績比4.5ポイント増)となり、小幅に改善の見通しとなった。

売上額・収益の動き

～売上額、収益とも悪化、来期は改善の見通し～

売上額判断DIは▲4.0(前期比9.5ポイント減)となり、悪化となった。収益判断DIは▲7.5(前期比8.5ポイント減)となり、悪化となった。

2015年4月～6月期(来期)の予想は、売上額判断DIは3.0(今期実績比7.0ポイント増)となり、改善する見通しとなった。収益判断DIは0.0(今期実績比7.5ポイント増)となり、改善するとの見通しとなった。

料金価格・材料価格の動き

～料金価格はほぼ横ばい、材料価格は大幅改善、来期はともに横ばいの見通し～

料金価格判断DIは1.0(前期比3.0ポイント減)となり、ほぼ横ばいとなった。材料価格判断DIは7.5(前期比10.5ポイント減)となり、大幅に改善となった。

2015年4月～6月期(来期)の予想は、料金価格判断DIは0.5(今期実績比0.5ポイント減)となり、横ばいで推移する見通しとなった。材料価格判断DIは9.5(今期実績比2.0ポイント増)となり、ほぼ横ばいとの見通しとなった。

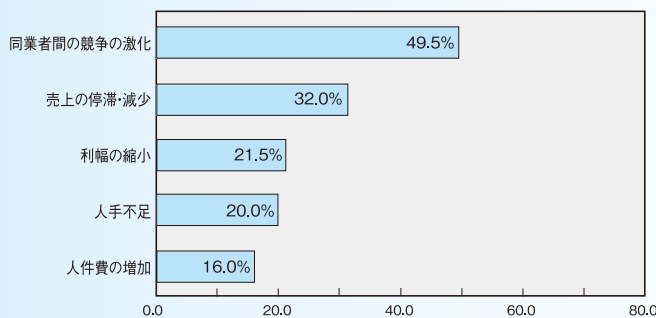
資金繰り・雇用面の動き

～資金繰り、人手不足感は横ばい～

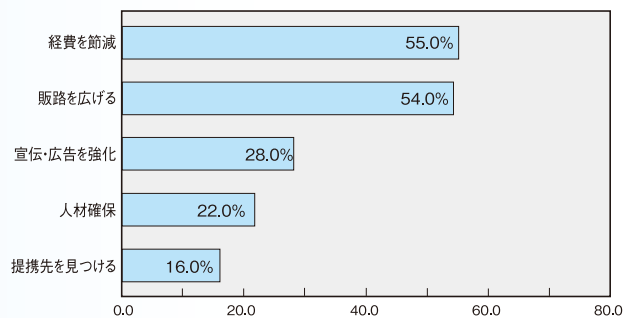
資金繰り判断DIは▲10.0(前期比1.5ポイント減)となり、ほぼ横ばいとなった。人手判断DIは▲19.0(前期比0.5ポイント減)となり、人手不足感は横ばいで推移した。

人手判断の内訳は、人手過剰とした企業が(前期1.0%→)2.0%、適正とした企業が(前期79.5%→)77.0%、人手不足とした企業が(前期19.5%→)21.0%となった。

■ 経営上の問題点



■ 当面の重点経営施策

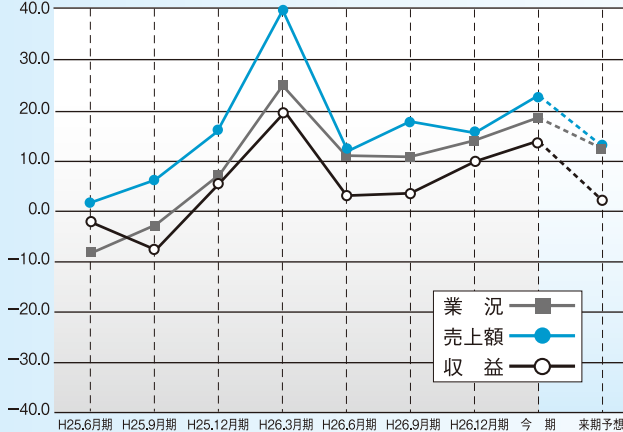


企業のコメント



- ・売上、収益は前年同期より増加している。今後も好調が見込まれる。(医療業)
- ・原油価格の低下が利益を増加させているが、今後は料金の値下げ要請も見込まれる。(運送業)
- ・人手不足は解消されない状況が続いているものの、新たな出店も計画しており積極的に取組みをしていく。(その他のサービス業)
- ・ネット関連の新たな事業の展開を計画しており、人材の確保も出来ている(システム開発業)
- ・売上は減少しており一部店舗を閉店するなど厳しい状況にある。(飲食業)
- ・売上、収益とも減少し正規社員の削減などしている。(その他のサービス業)

業況・売上額・収益



建設業 DI値の推移

	H25.6	H25.9	H25.12	H26.3	H26.6	H26.9	H26.12	今期	来期予想
業況	-8.2	-2.5	7.5	25.0	11.0	10.5	14.5	19.0	12.5
売上額	1.6	6.6	16.6	40.0	11.9	18.5	15.5	23.0	13.5
受注残	0.8	7.4	17.4	40.5	13.9	16.0	19.5	25.5	12.5
施工高	4.1	12.4	23.2	34.5	10.5	16.0	16.5	15.5	7.0
収益	-2.4	-7.4	5.8	20.0	3.0	3.5	10.0	14.5	2.5
請負価格	-9.1	-4.9	-4.9	7.6	5.5	6.5	7.0	9.5	5.5
原材料・仕入価格	14.9	15.7	19.1	24.6	26.4	33.0	32.5	28.5	20.0
在庫	-0.8	-0.8	0.0	-3.5	-2.0	-3.0	-1.0	0.5	-2.0
資金繰り	-19.0	-8.3	-8.2	-12.5	-9.9	-9.0	-7.0	-10.5	-5.0
従業員残業時間	-0.8	4.9	14.1	21.0	4.5	11.0	9.0	10.5	6.0
従業員人手	-9.1	-15.7	-23.2	-29.0	-23.9	-22.0	-23.5	-26.5	-25.0
設備状況	-1.6	-3.4	-5.0	-3.0	-4.5	-3.5	-6.0	-6.0	-7.5

業況について

～2015年1月～3月期、建設業の業況は小幅に改善、来期は悪化の見通し～

2015年1月～3月期、建設業の業況判断DIは19.0(前期比4.5ポイント増)となり、小幅に改善となった。改善は2期連続。対象7業種中最も高い数値となった。

最多請負先別に業況判断DIを見ると、「官公庁向け」は38.9(前期比2.3ポイント減)となり、ほぼ横ばいながら好調を維持した。また「大企業向け」は27.6(前期比10.1ポイント増)となり、大幅に改善となった。「中小企業向け」は12.1(前期比6.4ポイント増)となり改善した。しかし「個人向け」は▲20.0(前期比13.3ポイント減)となり大幅に悪化となった。

2015年4月～6月期(来期)の予想は、業況判断DIは12.5(今期実績比6.5ポイント減)となり、悪化すると見通しとなった。

◎最多請負先別の業況について(当期)

	合計	官公庁	大企業	中小企業	個人
全体	200	36	58	91	15
良い～悪い	38	14	16	11	-3
DI	19.0%	38.9%	27.6%	12.1%	-20.0%

売上額・収益・受注残の動き

～売上額、収益、受注とも改善、来期はいずれも悪化の見通し～

売上額判断DIは23.0(前期比7.5ポイント増)となり、改善となった。収益判断DIは14.5(前期比4.5ポイント増)となり、小幅に改善した。受注判断DIは25.5(前期比6.0ポイント増)となり、改善した。いずれも前回調査時の今期予想(18.0)、(4.5)、(16.5)を上回った。官公庁向け、大企業向けが好調要因とみられる。

2015年4月～6月期(来期)の予想は、売上額判断DIは13.5(今期実績比9.5ポイント減)となり、悪化すると見通しとなった。収益判断DIは2.5(今期実績比12.0ポイント減)となり、大幅に悪化すると見通しとなった。受注残判断DIは12.5(今期実績比13.0ポイント減)となり、大幅に悪化すると見通しとなった。

請負価格・原材料価格の動き

～請負価格はほぼ横ばい、原材料価格は高止まり、来期の原材料価格は改善見通し～

請負価格判断DIは9.5(前期比2.5ポイント増)となり、ほぼ横ばいで推移した。原材料価格判断DIは28.5(前期比4.0ポイント減)となり、小幅に改善した。ただ昨年3月期調査以降からDIは20を超えて推移している。2015年4月～6月期(来期)の予想は、請負価格判断DIは5.5(今期実績比4.0ポイント減)となり、小幅悪化の見通しとなった。原材料価格は20.0(今期実績比8.5ポイント減)となり、引き続き改善の見通しとなった。

在庫・資金繰り・雇用面の動き

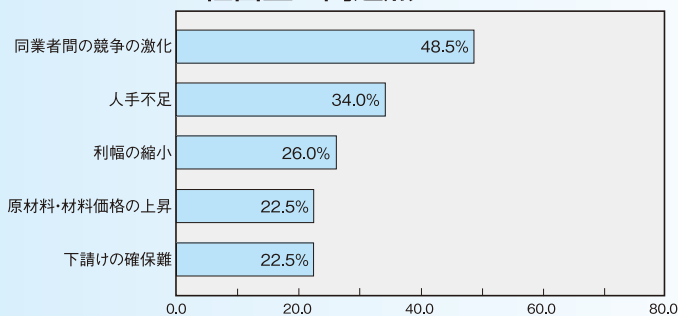
～在庫はほぼ横ばい、資金繰りは小幅悪化～

在庫判断DIは0.5(前期比1.5ポイント増)となり、ほぼ横ばいで推移した。資金繰り判断DIは▲10.5(前期比3.5ポイント減)となり、小幅に悪化となった。

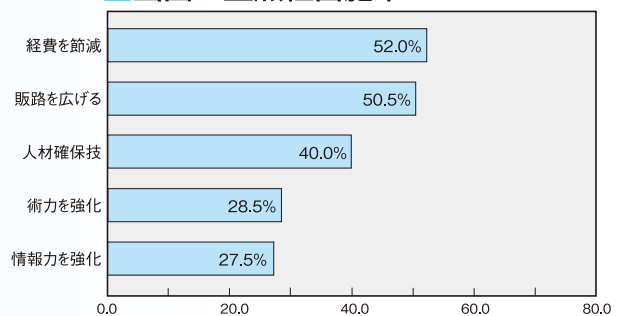
人手判断DIは▲26.5(前期比3.0ポイント減)となり、ほぼ横ばいで推移した。ただ2期連続マイナス数値は広がり、不足感は高止まりしている。

人手判断の内訳は、人手過剰とした企業が(前期1.0%→)2.5%、適正とした企業が(前期74.5%→)68.5%、人手不足とした企業が(前期24.5%→)29.0%となった。

経営上の問題点



当面の重点経営施策



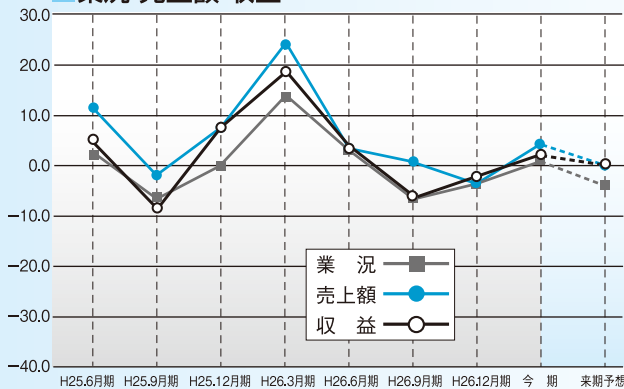
企業のコメント



- ・売上、収益は大型受注を中心に増加の状況にある。当面この状況は続く予想している。(識別工事業)
- ・売上、収益は増加し業況は良いが、原材料費、人件費の増加が収益を圧迫してきている。(建築・土木工事業)
- ・材料価格は上昇しているが、価格転嫁も出来ている。(総合工事業)
- ・受注は比較的好調であるが、材料価格の上昇と人材不足の状況にある。(建設業)
- ・売上、受注は好調ながら人材不足から外注費が増加している。(タイル工事業)
- ・インフラ老朽化対応に伴う工事の受注を中心に売上、収益は増加しているが、人材不足で受注調整の状況である。(塗装工事業)



業況・売上額・収益



不動産業 DI値の推移

	H25.6月期	H25.9月期	H25.12月期	H26.3月期	H26.6月期	H26.9月期	H26.12月期	今期	来期予想
業況	1.9	-6.9	0.0	13.8	3.8	-6.1	-3.8	0.7	-3.9
売上額	10.8	-2.0	8.0	24.6	3.9	0.8	-3.8	4.6	0.0
収益	4.9	-8.9	8.0	19.2	4.6	-6.1	-2.3	1.6	0.0
販売価格	1.9	-2.0	4.0	5.3	2.3	1.6	-2.3	-1.6	-0.8
仕入価格	35.6	29.0	31.6	30.3	28.4	22.4	24.6	21.6	23.8
在庫	-20.6	-25.8	-17.2	-11.5	-13.0	-14.6	-20.7	-15.3	-19.2
資金繰り	2.0	-3.0	0.0	3.0	3.1	-1.5	0.0	3.1	1.5
従業員残業時間	1.9	-1.0	1.0	2.4	-0.8	0.8	-1.5	-3.0	-3.1
従業員人手	-2.9	-5.9	-4.1	-6.9	-4.6	-3.1	-3.8	-0.7	-1.6

業況について

～2015年1月～3月期、不動産業の業況は小幅に改善、来期は小幅に悪化の見通し～

2015年1月～3月期、不動産業の業況判断DIは0.7(前期比4.5ポイント増)となり、小幅に改善となった。

業種内容別に業況判断DIをみると、「賃貸」は12.5(前期比12.5ポイント増)となり、大幅に改善となった。また「建売」は▲1.4(6.8ポイント増)となり改善となった。「仲介管理」は0.0(前期比2.4ポイント減)となり、ほぼ横ばいで推移した。

2015年4月～6月期(来期)の予想は業況判断DIが▲3.9(今期実績比4.6ポイント減)となり、小幅に悪化すると見通しとなった。

◎業種内容別業況について(当期)

	全体	賃貸	建売	仲介管理
全体	130	16	72	42
良い～悪い	1	2	-1	0
DI	0.8%	12.5%	-1.4%	0.0%

売上額・収益の動き

～売上額は改善、収益は小幅に改善～

売上額判断DIは4.6(前期比8.4ポイント増)となり、改善となった。また前回調査時点での今期見通し(▲7.7)を超える改善となった。収益判断DIは1.6(前期比3.9ポイント増)となり、小幅に改善が見られた。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は横ばい、仕入価格はほぼ横ばい～

販売価格判断DIは▲1.6(前期比0.7ポイント増)となり、横ばいで推移した。仕入価格判断DIは21.6(前期比3.0ポイント減)となり、ほぼ横ばいで推移した。2015年4月～6月期(来期)の予想は、販売価格判断DIは▲0.8(今期実績比0.8ポイント増)となり、横ばいで推移すると見通しとなった。仕入価格判断DIは23.8(今期実績比2.2ポイント増)となり、ほぼ横ばいで推移すると見通しとなった。

在庫・資金繰り・雇用面の動き

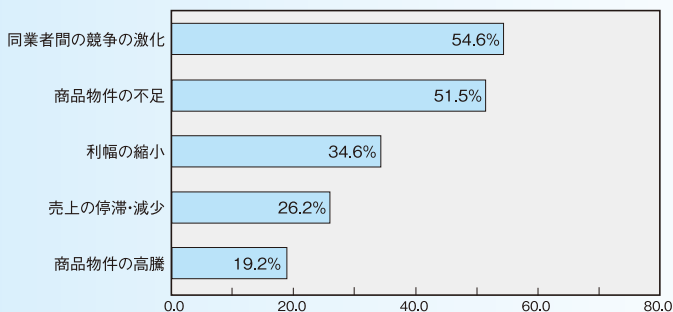
～在庫は4期ぶり改善、資金繰り、人手不足感は小幅に改善～

在庫判断DIは▲15.3(前期比5.4ポイント増)となり、4期振りに改善となった。

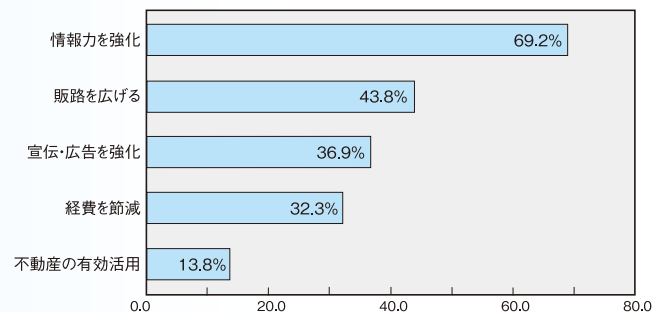
資金繰り判断DIは3.1(前期比3.1ポイント増)となり、小幅に改善となった。

従業員人手判断DIは▲0.7(前期比3.1ポイント増)となり、小幅に改善となった。従業員人手判断の内訳は、人手過剰とした企業が(前期0.0%→)0.8%、適正とした企業が(前期96.2%→)97.7%、人手不足とした企業が(前期3.8%→)1.5%となった。

経営上の問題点



当面の重点経営施策



企業のコメント

- ・売上は増加しており業況はよい。当面はこの状況は維持できる見通しをしている。(建売業)
- ・営業を強化して住宅販売は好調で売上は増加している。(建売業)
- ・外国人向けシェアハウスの賃貸は好調な状況で、地主からの一括借り上げを行っている。(不動産代理業・仲介業)
- ・在庫は不足しているうえ仕入価格は上昇し商品の確保が難しい状況である。(不動産代理業・仲介業)
- ・商業エリア内の賃貸物件の一部に老朽化が見られ、賃料低下と空室率が上昇し厳しい状況である。(貸事務所・土地賃貸業)
- ・在庫は不足、売上、収益も前年同期と比較して減少しており、当面この状況は続く予想している。(その他不動産業)

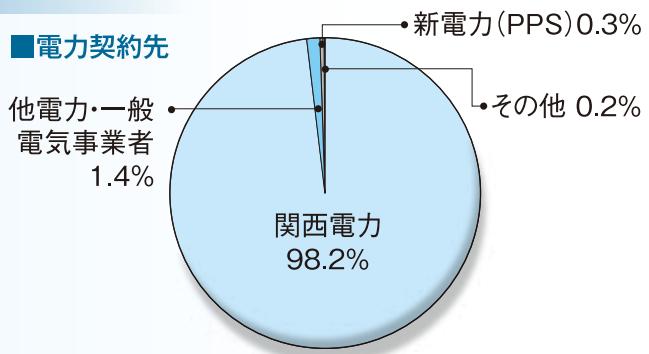
北おおさかしんきん景気動向特別調査として、今回は「平成27年・電気料金再値上げの影響」と題してアンケート調査を行いました。関西電力による料金値上げは平成27年4月1日から工場等向けの自由化分野で平均13.93%値上げされ、主に家庭向けの規制分野(申請は平均10.23%)は5月以降に10%前後の値上げが見込まれます。

調査期間は値上げ前の平成27年3月2日～3月6日。調査対象は北大阪を中心とする地元企業1,200社で、有効回答企業数1,200社(有効回答率100%)

### 電力(電気)契約先は・・・

～関西電力との契約は98.2%～

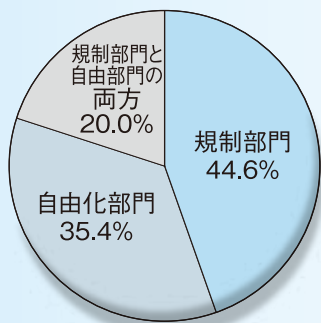
電力(電気)契約先について、調査では関西電力と契約している企業は98.2%となった。



### 関西電力との契約の種類は・・・

～自由化部門が35.4%～

関西電力と契約していると回答した企業1,178社の契約の種類は、規制部門(家庭・商店等の電灯・低圧電力等)は44.6%。自由化部門(工場、ビル等の業務用・産業用の高圧電力等)は35.4%となった。また規制部門、自由化部門の両方を契約は20.0%となった。



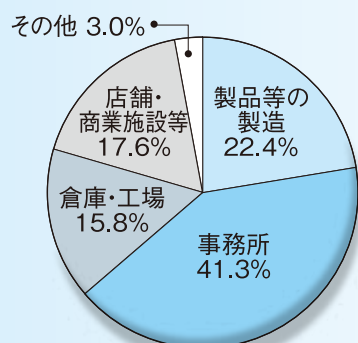
■ 関西電力と契約している電力の種類

回答	業種	全体	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
規制部門		44.6%	21.5%	13.3%	48.3%	71.4%	44.4%	56.6%	75.0%
自由化部門		35.4%	53.3%	62.8%	29.7%	19.0%	33.2%	23.2%	12.5%
規制部門と自由部門の両方		20.0%	25.1%	24.0%	22.0%	9.5%	22.4%	20.2%	12.5%

### 最も電力(電気)を使用するところは・・・

～4割の企業は事務所と回答、ただし製造業、金属機械工業は製造部門がトップ～

最も電気を使用する箇所では、高い回答は「事務所」の41.3%、次いで「製品等の製造」が22.4%、「店舗・商業施設等」が17.6%、「倉庫・工場」が15.8%となった。



■ 最も電気を使用するところ

## 再値上げによる業績への影響について・・・

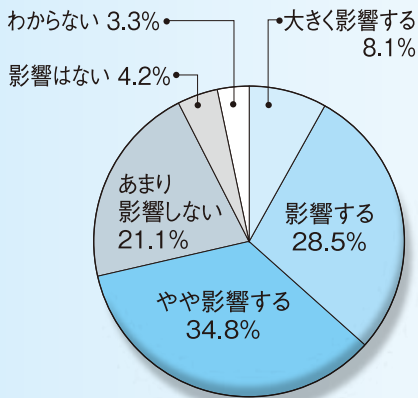
### ～企業の7割以上が影響、従業員数規模100人以上では3割が大きく影響～

料金の再値上げによる業績への影響について、「影響する」と答えた企業は71.4%と高い回答となった。うち「大きく影響する」と回答した企業は8.1%となった。

業種別みると、「影響する」で最も高い回答は、金属機械工業の88.0%となった。次いで製造業の86.0%、小売業の75.3%、サービス業の70.5%となり、7割を超えた。

従業員数規模別みると、「100人以上」で「大きく影響する」が30.0%と、他と比較し高くなった。

### ■電気料金再値上げによる業績への影響



#### 【業種別】

回答	業種	全体	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
大きく影響する		8.1%	11.0%	16.0%	1.7%	12.7%	9.0%	2.0%	0.0%
影響する		28.5%	38.5%	42.0%	26.7%	25.3%	29.5%	16.0%	15.4%
やや影響する		34.8%	36.5%	30.0%	37.5%	37.3%	32.0%	39.0%	32.3%
あまり影響しない		21.1%	10.0%	6.0%	26.7%	18.7%	21.0%	34.0%	39.2%
影響はない		4.2%	1.5%	2.0%	3.3%	5.3%	4.5%	6.5%	6.9%
わからない		3.3%	2.5%	4.0%	4.2%	0.7%	4.0%	2.5%	6.2%

#### 【従業員数規模別】

回答	従業員数	全体	4人以下	5～9人	10～19人	20～29人	30～49人	50～99人	100人以上
大きく影響する		8.1%	6.5%	5.8%	7.0%	7.7%	9.6%	13.6%	30.0%
影響する		28.5%	21.0%	26.6%	30.3%	44.2%	36.1%	32.2%	36.0%
やや影響する		34.8%	31.9%	34.8%	39.8%	30.8%	36.1%	42.4%	30.0%
あまり影響しない		21.1%	30.5%	25.3%	15.2%	13.5%	9.6%	10.2%	4.0%
影響はない		4.2%	6.0%	4.4%	4.1%	1.9%	2.4%	1.7%	0.0%
わからない		3.3%	4.1%	3.1%	3.7%	1.9%	6.0%	0.0%	0.0%

## 再値上げによる電気料金の年間予想増加額・・・

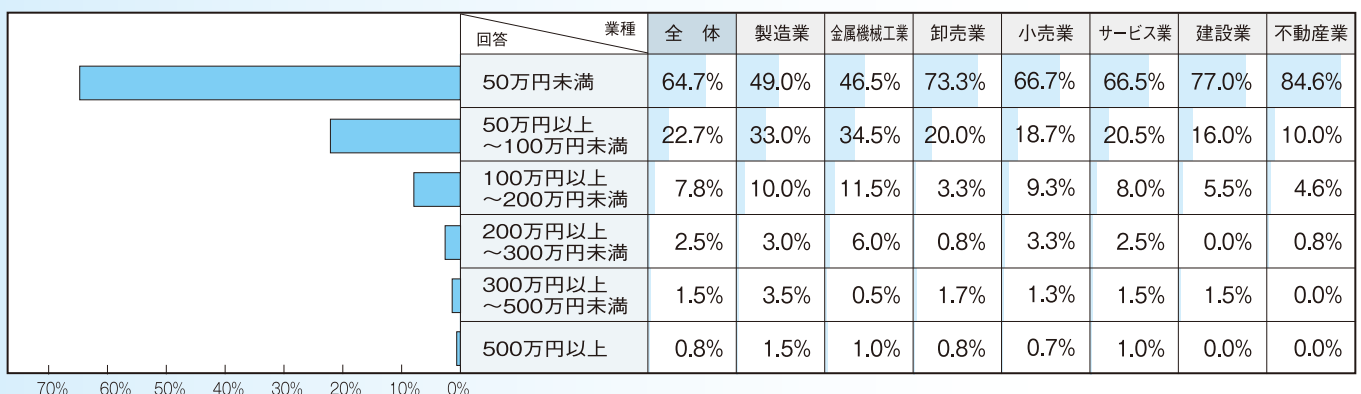
### ～製造業、金属機械工業の約2割の企業が年間100万円以上の増加～

再値上げによる、電気料金の年間増加予想額で、調査では100万円未満の増加の87.4%となった。

100万円以上の増加は12.6%となった。業種別では、100万円以上の増加は金属機械工業で19.0%となった。

次いで製造業の18.0%となった。うち製造業の5.0%は300万円以上の増加と回答した。

### ■電気料金再値上げによる料金の年間増加予想額



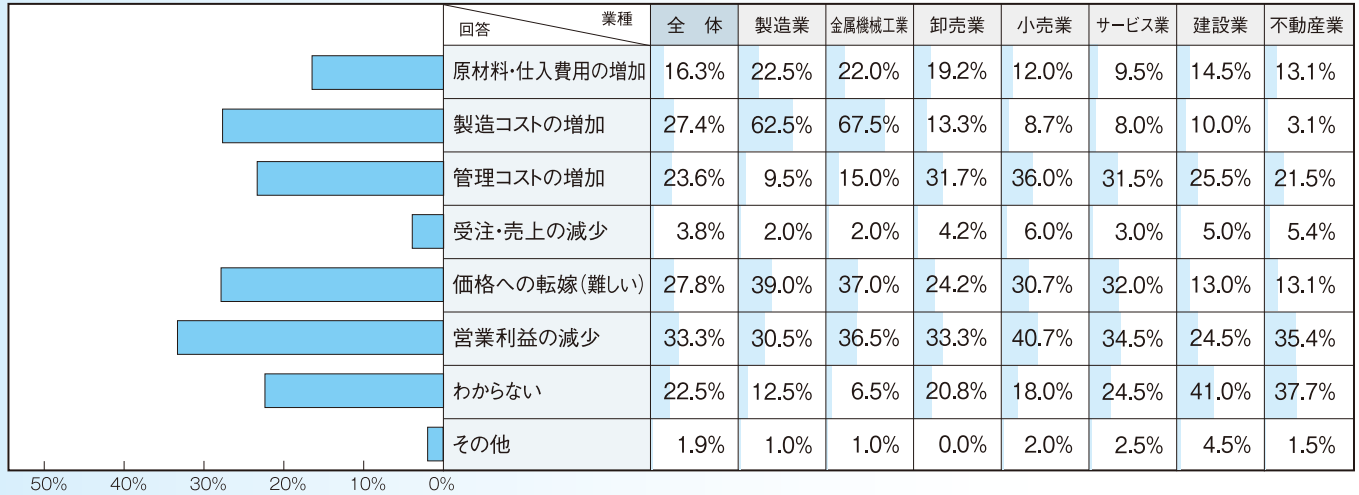


## 再値上げで、もっとも影響を懸念していること・・・

### ～営業利益の減少がトップ、製造業、金属機械工業では製造コストの増加がトップ～

料金再値上げにより、特に影響を懸念しているもので、最も高い回答は「営業利益の減少」の33.3%となった。  
 次いで「価格転嫁(難しい)」27.8%、「製造コストの増加」27.4%、「管理コストの増加」23.6%の順となり、20%を超えている。  
 業種別では、特に「製造コストの増加」で金属機械工業の67.5%が高くなった。次いで製造業の62.5%となった。

### ■電気料金再値上げの影響で特に懸念すること(複数回答)

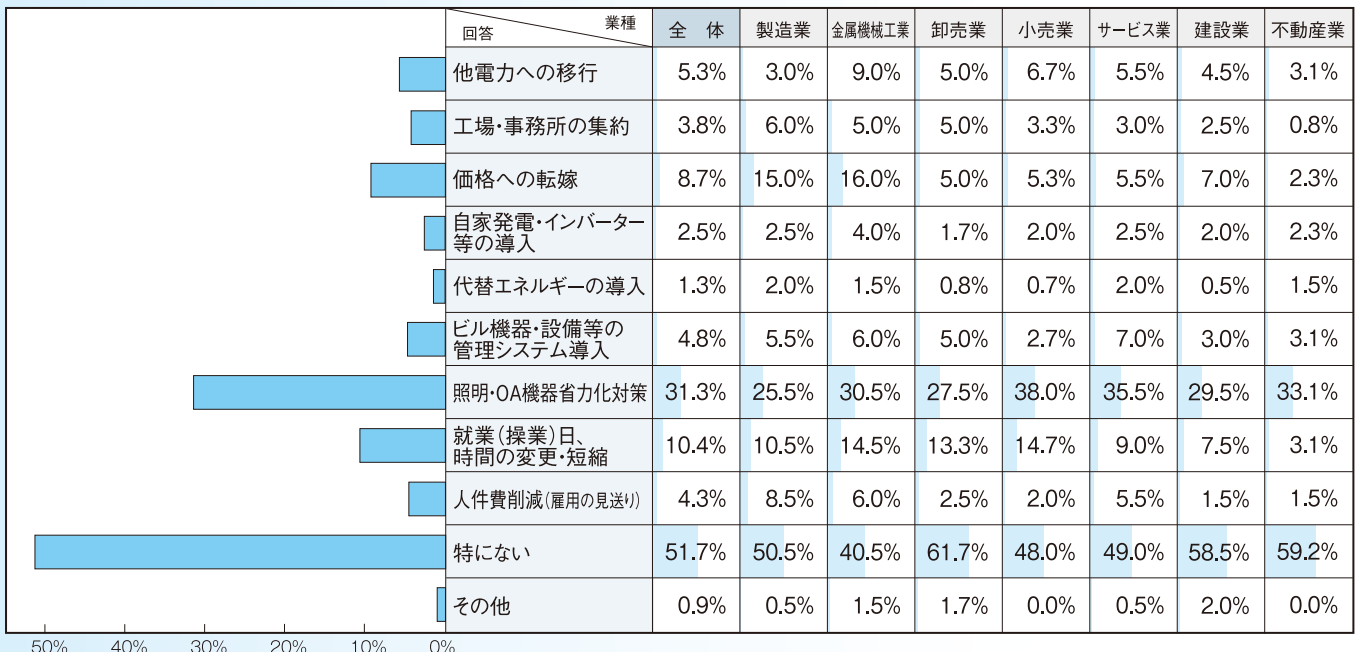


## 値上げに対する対策・対応は・・・

### ～約半分の企業で対策を検討、トップは照明・OA機器省力化～

料金再値上げに対して対策をとるとした企業は48.3%となった。対策で最も高い回答は「照明・OA機器省力化対策」で31.3%となった。  
 次いで「就業(操業)日、時間の変更・短縮」で10.4%となった。  
 業種別では、7業種すべてで「照明・OA機器省力化対策」をトップに掲げた。調査ではほぼ現状の閑電との契約のままでの対策となった。  
 ただ業種で影響の大きい金属機械工業は「他電力への移行」9.0%が他に比べ比較的高い。

### ■電気料金値上げに対する対策・対応(複数回答)



# 地域密着を信条とした78か店のネットワーク

## 店舗のごあんない

### 北おおさか信用金庫 店舗配置図



※地図はイメージです。

- |   |   |  |   |   |   |
|---|---|--|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 吹田市水道部出張所</li> <li>◆ 吹田市役所出張所</li> <li>◆ JR吹田駅前さんくす出張所</li> <li>◆ イズミヤ千里丘店出張所</li> <li>◆ メロロード吹田出張所</li> <li>◆ イオン南千里店出張所</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ フレンドマート岸辺出張所</li> <li>◆ 千里丘駅出張所</li> <li>◆ イオン高槻店出張所</li> <li>◆ セントラルマーケット出張所</li> <li>◆ ダイエー摂津富田店出張所</li> <li>◆ フレンドマート高槻美しが丘店出張所</li> <li>◆ チャオパルコ芥川出張所</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 阪急オアシス高槻川西店出張所</li> <li>◆ フレンドマート高槻川添店出張所</li> <li>◆ ジョーシン高槻大塚店出張所</li> <li>◆ 関西スーパー西冠店出張所</li> <li>◆ サボイ出張所</li> <li>◆ マルヤス宮田店出張所</li> <li>◆ コープ島本出張所</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ イオン茨木ショッピングセンター出張所</li> <li>◆ コープ茨木白川出張所</li> <li>◆ イオン新茨木店出張所</li> <li>◆ 豊中市役所出張所</li> <li>◆ チャオパルコ豊中出張所</li> <li>◆ 小曾根出張所</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ イオンタウン豊中緑丘SC出張所</li> <li>◆ イオン真面出張所</li> <li>◆ 関西スーパー瑞光店出張所</li> <li>◆ 三国商店街出張所</li> <li>◆ 神崎川駅前出張所</li> <li>◆ イオン高見店出張所</li> <li>◆ 毛馬出張所</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ イオン大日SC出張所</li> <li>◆ ホームズ寝屋川出張所</li> <li>◆ 菅原出張所(旧菅原支店)</li> <li>◆ 宮原出張所(旧東淀川支店)</li> <li>◆ 千里丘西出張所(旧千里丘支店)</li> <li>◆ 大地出張所(旧大地支店)</li> <li>◆ ご相談プラザ チャオパルコ豊中</li> </ul> |
|---|---|--|---|---|---|

営業地域(地区別) 大阪府: 大阪市、茨木市、高槻市、吹田市、豊中市、箕面市、池田市、守口市、門真市、摂津市、寝屋川市、大東市、東大阪市、枚方市、八尾市、交野市、四条畷市、堺市、松原市、三島郡、豊能郡  
 兵庫県: 尼崎市、伊丹市、川西市、西宮市、宝塚市、川辺郡  
 京都府: 向日市、長岡京市、乙訓郡大山崎町

発行日 平成27年4月30日  
 発行 北おおさか信用金庫 総合企画部  
 住所 〒567-8651 茨木市西駅前町9-32  
 電話 072-623-4981(代)  
 ホームページ <http://www.kitaosaka-shinkin.co.jp/>  
 編集 株式会社 大阪彩都総合研究所

